

令和8年度 第1回豊田市地域保健審議会

開催日時：令和8年6月30日（火）午後2時～3時30分

場 所：豊田市役所 南庁舎7階 南74委員会室

出席者（敬称略）：平吹広一（会長）、田代和久（副会長）、岩月幸雄、大橋一之、
後藤哲也、酒井恵子、重松良祐、中出美代、長谷川喜代美、
前田定利、吉田哲也

欠席者（敬称略）：谷友一郎

市側出席者：佐野保健部長、竹内保健所長、寺田保健部副部長、能見保健部専門監、
鈴木健康政策課長、野嶋健康づくり応援課長、松下感染症予防課副課
長、都築保健衛生課長、川合保健支援課長、加藤おやこ応援課長

1 豊田市あいさつ

●佐野保健部長
豊田市あいさつ

●竹内保健所長
豊田市あいさつ

2 委員紹介 事務局による委員紹介

3 審議会会長及び副会長の選任

○吉田委員
会長に平吹委員、副会長に田代委員を推薦

○全委員
異議なし

4 審議会会長あいさつ

○平吹会長
あいさつ

5 議 事

【協議事項】

(1) 健康づくり豊田21計画（第四次）の推進状況及び中間評価の今後の進め方について

●野嶋健康づくり応援課長

資料1-1、1-2

●能見保健部専門監

資料1-3説明

○重松委員

資料1-2に示しているとおり、かなり進捗は進んでいる。ほとんどの評価区分が「4」となっており、計画通り進んでいる。また、評価区分「3」と「2」については今後の進め方を検討している。健康づくり豊田21計画推進委員会も見届けようという姿勢でいる。多様な分野の方々へ働きかけをしている。年齢層でいうと子どもから、高齢の方まで。分野でいうならば、運動、栄養、心の話、さらに命の話といったような多様な分野に渡り、話し合いをしている。多用なステークホルダーの方に関与いただき、運営をしている。第1回推進委員会では各立場の委員の方々によって、本質的な意見交換ができていた。現状は市民生活実態調査の最中で市民への影響を取りまとめており、秋に分析、来年2月に発表の予定。中間評価は昨年度まで展開していた事業がどういう結果を市民にもたらしているか確認ができるよい機会である。

○中出委員

資料1-2より、丁寧にいろいろな活動をされ、実績をあげていて素晴らしいと思った。私は栄養士なので、働く若者と働く世代等への健康づくりの意識向上というところに、着目している。高校生を対象とした出前講座等、回数はとても多い一方で、朝食を食べない高校生及び大学生が依然としてかなり多い。いつから食べなくなるのかをデータで見ると小学生の高学年頃から食べなくなっている。だから出前講座をどういう年代の人が実施するかが鍵になってくるのではないか。ピュアエデュケーションのような感じで、同年代の人たちからのアプローチの方が健康教育に効くというデータの報告がある。回数をこなしても定番になっている形のパッケージで実施すると、あまり効果が出ないかもしれない。もしかしたらもう少し近い年齢の方で実施するとよいのかもしれない。それがどういう形で実施されているのか分からずに発言しているので、相違があれば申し訳ない。

●野嶋健康づくり応援課長

実は、学生発信の健康づくりを始めている。当課が高校生や大学生等に健康教育

を実施し、そこで学んだ学生が子ども食堂等で、クイズ形式で子どもに学んだことを伝えている。また、大学生が栄養について部活動をしている中学生、高校生に教育をしてもらう取組も進めている。市の職員が直接実施する出前講座を減らし、学生主体の教育という形に令和6年度からシフトし、実施方法を変えながら今取り組んでいる。ただ件数は限られているため、それを横展開、さらに拡げていくことは必要と考えている。

○平吹会長

中出委員、子どもが自主的に食べないパターンが多いのか、親がもう食べなくてもよいと作らないパターンのどちらが多いのか。

○中出委員

子どもは小さいと割と親の影響が大きいと思う。食育で子ども向けの教材を作っている。双六の中にシルエットで「ナス」があり、それで子どもが遊んで2ヶ月試した後アンケートを実施している。子どもが「食べるようになった」「野菜が好きになった」「手伝うようになった」等の回答は想定内であった。想定外の回答として「親が苦手だったナスを十何年ぶりに食べた」と反応あり。親から子への影響は家庭状況が変わらないが、子どもから親を動かしその家庭環境を変えることが重要で、これからの食育の形だと思った。

○平吹会長

資料1-2で「ICTを活用した健康づくりの推進」は、目標12回に対して3回の実施になっており目標に達していないが、当初から計画してなかったのか、それとも計画したのに実施できなかったのか教えていただきたい。それに伴い「健康づくりアプリの登録者数」も評価「3」となっている。今の時代、このあたりを推進していくべきだが、そのあたりはどうか。

●野嶋健康づくり応援課長

まず「ICTを活用した健康づくりの推進」は、オンライン講座の実施回数は非常に少ないが、その他の実施内容として、デジタルサイネージによる各種啓発（がんや自殺予防等）をした。また、高齢者にテレビゲームを使った活動の支援やAIによるこころの相談等で評価項目に合致しないものを、年間55回実施した。評価基準が異なるが、その他のところで取組はしている。

「健康づくりアプリの登録者数」については令和11年度末までに5,000人を目標に、年間500人ずつは増やしたいが、令和7年度は356人で若干少ない。市民だけへの周知では増えていけないので、事業所や高校、大学等いろいろな関わりがある対象に働きかけをして拡げていきたい。

○岩月委員

資料 1 - 3 の 3 「歯と口の健康」について、健康づくり協議会としても、オーラルフレイル予防の啓発をしている。「いい歯の心得 8 か条」の中に、「定期的に歯医者でチェックしましょう」とある。市の受診券を使用した歯科健診と、定期的に歯医者で受診しているケースと両方あると思うが、この市民生活実態調査の結果でその点を確認しているのかをお聞きしたい。

●能見保健部専門監

「定期的に歯科健診を受けていますか」という項目があるので、「半年に 1 回」「3、4 ヶ月に 1 回」「年に 1 回」といった尺度でアンケートを取っている。歯の健康は割と後回しになりがちだが、大事だと思っているので、結果はしっかりと見定めて考えていきたい。また市民生活実態調査では市の健診かどうかは区別して聞いていない。

○田代副会長

4 月から歯科健診の内容が大きく変わり、オーラルフレイルを予防するために、口腔機能評価もするようになっている。従来の「虫歯がある/ない」「歯周病がある/ない」というような項目以外にも、口の機能がどの程度保たれているかという項目も足されている。ぜひ歯科健診を受けていただきたい。

○大橋委員

資料 1 - 2 の「民間事業所を対象とした健康経営セミナー」について聞きたいが、ここ数年で新規のニーズが増えてきているので、新たに行ったアクションや事業所へのアプローチについて知りたい。また訪問時の会話の中で健康づくりに共通する課題について、また機会があれば教えていただきたい。

○吉田委員

近年、オーバードーズが社会問題となっており、自殺企図につながる可能性もあることから、ゲートキーパーの養成を進めるとともに、地域全体で孤立している人への気づきや見守りを行い、支え合う仕組みづくりが重要である。また、朝食を食べない背景には家庭環境や居場所の問題がある場合も考えられるため、健康づくりと併せて、安心して過ごせる環境づくりを進めることが望ましい。さらに、オーバードーズや薬物乱用には SNS の利用が影響している側面もあることから、ICT の活用を推進する際には、その利便性だけでなく、リスクや留意点についても十分配慮しながら進めていく必要がある。

○平吹会長

豊田市の薬物問題の現状としてどの程度発生しているか。

●鈴木健康政策課長

市内の発生件数における数字は持ち合わせていないが、愛知県下では若年層の大麻事犯の検挙数が増えている。吉田委員の発言のとおり、SNSの普及によりネットで情報を得て買ってしまうこともあり、若年化が進んでいる印象である。

(2) 令和7年度及び令和8年度の重点取組について

●寺田保健部副部長

資料2-1、2-2、2-3説明

○前田委員

「まちぐるみで取り組む心とからだの健康づくりの推進」で、地域事業所等のつながりを支援する中で地域にどのような声かけをしているのか。また、「多様なつながり合いの健康づくりの推進」で、地域・企業・学校等と連携した取組とある。そのあたりのつながりとか、その際の声かけはどのような形になっているかをお聞きしたい。

●野嶋健康づくり応援課長

地域での声かけでは、例えばスーパーマーケット等のいろいろな啓発の機会を捉えている。健康づくり豊田21計画のスローガンである「とよた健康プラス10」を基に「1日ちょこっと健康に良いことをしていこう」と周知をし、そこで健康相談や健康測定という形で接点を持ちながら啓発をしている。また、事業所や学校では、「きらちゃんアンバサダーカード」というものがあり、市の職員が健康教育をした後に、自分が学んだことを他の人にも伝えていただく形で健康づくりの輪を広げていただくというような活動もしている。

○前田委員

地区の老人クラブとか、各自治区区長会等にも声かけしていくと良い。先ほどの高校生のアプリ等二次元コードについては、区長会の人たちも使えるようになってきているので、拡げていただけるとよいのではないかと。また、食品衛生協会は食の衛生管理及び避難所の管理をしている。こども園では手洗い教室を開催しており、昨年度は30園で1,000名の子どもに保健衛生課の協力を得て実施した。ただ、避難所の衛生管理等については、豊田市には28中学校区があるので、なかなか連携が難しいが、今から進めていきたい。防災に関わると各自治区、そして関連機関があるため、どのように衛生管理を進めていくかが今後の課題である。会員の意識と

して、この地域では震度 5 や 6 の体験がない。その中で災害が起きた時にどのような対応できるか分からない。身近に震度 6 の地震が起きた時や被災後にこういった活動ができるか、今後もいろいろな協力をさせていただきたい。

○長谷川委員

資料 2 - 1 「令和 7 年度の重点取組項目」の求める状態・成果の欄にある「令和 7 年度のミライのフツー」の記載について確認したい。

項目番号 3 「大規模災害や感染症等による危機管理への対応」の 1 点目「大規模災害発生時に対応し得る医療保健対策部の体制が確実に構築できるよう必要な人材の確保ができています」と 2 点目「I H E A T 要員が活動できる体制が確保されている」とあるが、成果が実績の欄を見て読み取れない。同様に項目番号 4 「感染症対策及び予防接種の推進」の「定期予防接種の適切な接種率が維持できている」として接種率の目標が 9 5 % 以上と記載しているが、実際の接種率はどうか。また、項目番号 5 「精神障がい者や難病患者等の自立支援体制の推進」として「難病等の患者への自立支援事業の推進により、療養生活の不安が解消されている」は、把握が難しいと思うが、どのように現状を把握しつつあるのかを聞きたい。

●鈴木健康政策課長

項目番号 3 の大規模災害時の令和 7 年度末の医療保険対策の体制の構築と必要な人材確保について回答する。医療保健対策部は、市役所の中で組織するグループで、保健所運営班、保健師を中心とした保健活動班、獣医師と薬剤師で活動する衛生活動班の 3 つがあり、各グループでワーキンググループを組織し、実際に大規模地震が発生した場合、発生直後からどのような動きをするべきかをシミュレーションし、マニュアルを整えながら検討するという場を定期的にもっている。いつ有事が起きても確実に動ける体制を構築している。続いて I H E A T 要員については、豊田市は 5 名確保することが目標値で、現在は 7 名確保し目標値は達成している。会計年度任用職員の看護師、保健師の資格を持った方に協力をお願いしており、有事の際には I H E A T 要員として保健所業務を助けていただくよう、研修や勉強会を実施し有事の際にすぐに動けるような体制を構築している。

●松下感染症予防課副課長

項目番号 4 について説明する。9 5 % というのは、集団免疫を維持するために、国が目標としている接種率である。麻しん風しんの予防接種は 1 期と 2 期があり、1 期は 9 5 . 9 % で目標達成している。2 期は小学校入学前の年長児が対象で、9 1 . 6 % と目標を下回っている。B C G 接種率は 9 6 . 3 % で目標を上回っている。

●川合保健支援課長

項目番号5については、主に難病患者または小児慢性特定疾患児を対象にした家族教室等や普段の不安や悩みに対して療育相談会というものを行った。また、令和6年度に実施したアンケートで、小児慢性特定疾患児に対しては、保護者が就労問題について悩みや不安を抱いている方が多かったため、昨年度は就労をテーマにした相談会を行う取組を行った。

○長谷川委員

相談会を行った感触や参加者の声等はどのようなものがあったか聞きたい。

●川合保健支援課長

例えば「病気をオープンにするのかクローズにするのか」といった相談が多かった。それに対して「全てをオープンにして働かなくても、その時に信頼する方だけに相談をする」といった実際の当事者や先輩からの意見を聞いて自身もそれに合ったものを選んでいくという選択肢ができたという声があった。

○酒井委員

いろいろな取組をされていることが分かった。質問だが、5歳児健診は以前から実施している就学前健診には該当しないのか。

●加藤おやこ応援課長

5歳児健診については年中児を対象として今年度から行われるものになり、就学前健診は年長児が対象となっている。

○酒井委員

育児支援のあり方で一番気になっているのは、パパママ教室等だけで、十分に支援ができているのか。居場所作りやこども園待機児童解消のための施策もあり就園率が100%になっているが、親子で乳幼児の一番大事な愛情関係を築く過程で、親の親になる喜び、子どもが親を慕いながら、自己肯定感を持ちすくすく育っていけるような育児支援にも着目していただき施策に活かしてほしい。

○重松委員

資料2-2、項目番号3に関わることで提案になるが、過去に東日本大震災の際に筑波大学と連携して避難者への運動指導に携わった。また能登半島地震では石川県の勤労者医療協会の方と、エコノミークラス症候群やフレイル予防を運動の方面からアプローチしたことがあるので、もしこの項目に関わるのであれば、備えておいても良いのではないのか。一つのアイデアだが、誰がどこに自分がボランティアと

して行きたいとなった時に、同じジャンルの人が同じ避難所に偏ったりし、他の避難所が手薄になったりする事象があった。それを一元整理できるようなWEBサイトを作り、登録制度にするといったことが具体的な取組になるかもしれない。震災後の避難所での運動指導とかが必要になると思うので、体制の一つとして検討いただきたい。

○平吹会長

豊田加茂医師会でも先日災害対策委員会を立ち上げた。そこでの意見は災害に対して問題になっているのは医療だけではないということであった。出席されている委員の方には、ぜひ災害についても話し合っていたきたい。

○岩月委員

資料2-3、項目番号11の中で、ライフデザインの形成支援については、どこまで踏み込んだ話があるか。子どもたちに「ライフデザインが組み立てられるとよい」と伝えられる内容になっているのか聞きたい。

●加藤おやこ応援課長

ライフデザイン形成支援はこども・若者政策課が担当課になるが、大学生が子育て家庭のところに留学するというような取組等が行われている。また、おやこ応援課としては、国が「プレコンセプションケアに関する5か年計画」を進めており、令和11年までに認知度80%の達成を目標としている。

プレコンセプションケアとは、国の定義では「性別を問わず、性や健康に関する正しい知識を身につけ、妊娠出産を含めた将来のライフプランを考えること」とされており、将来の多様な選択肢に備え、若いうちから健康づくりや生涯設計に取り組むという考え方である。こうした考え方を若い世代へ広く周知するための取組として、7月1日から東庁舎1階で啓発活動を実施する。具体的な実施内容については、今後検討を進める。

○岩月委員

国の方針もあると思うが、どこまで踏み込めるのか、どこまで言葉を使っていいのか微妙だと思うが、現実問題として踏み込まないとライフデザインを具体的に考えていけるようにならないので、できる限り踏み込んでいただきたい。

【報告事項】

(1) 豊田市新型インフルエンザ等対策行動計画について

●松下感染症予防副課長

資料3-1、3-2、3-3説明

○平吹会長

新型コロナウイルス感染症では多くのことを学び経験し知識を得た。それを是非活かしていただきたいと思う。

(2) 介護予防事業について

●野嶋健康づくり応援課長

資料4 説明

○平吹医院

(委員に向け、他に御意見や議事はないか確認後) 特にないので、議事についてはここで終了とする。

— 以上 —